

# 佐賀県武雄市教育委員会 完了報告書

## 1. 調査研究概要

武雄市は、官民一体型学校「武雄花まる学園」プログラミング学習等、様々な取り組みがあり、水曜日以外はすべて6時間授業を実施している。また、年間5～10日間の土曜等開校も実施している。しかしながら土曜等開校の実施日数の増加だけでは授業時数の上で新学習指導要領への対応ができない。そこで、市内の3小学校において、15分の短時間学習、夏季休業期間の短縮も含めて、どのような組合せを行えば、家庭・地域の理解を得つつ、教職員のワーク・ライフ・バランスも考慮に入れた上で、授業時数が確保できるかを昨年度の課題を踏まえながら実践的な調査研究を行った。

### (年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	
5月	
6月	
7月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議 研究対象校担当者会議 H29実施 GTEC Junior の分析
8月	
9月	
10月	
11月	H30 GTEC Junior の実施
12月	
1月	カリマネ研修会
2月	第2回カリキュラム・マネジメント検討会議 武雄市内教務主任研修会（3校の取組紹介）
3月	

## 2. 調査研究の内容

### 【1. 武雄市立朝日小学校】

#### 2-1 調査研究の内容

- ・月曜6校時に行っていたクラブ活動・委員会活動・代表委員会のうち、年11回の委員会活動と年3回の代表委員会を金曜日の放課後に外出しして行う。クラブ活動がない週の月曜6校時をすべて授業にあてることで、外国語の時間を確保する。
- ・月1回程度、年間9回行うクラブ活動により削られた教科を補充するため、金曜日の朝の時間から1時間目にかけて、60分授業を実施する。60分授業は体育、理科、図工、音楽、総合的な学習など技能教科を中心に行う。

## 2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

- ・29年度よりも英語を学習する時間が増えたことで、学習意欲だけでなく、英語の知識技能ともに向上した。
- ・英語によるコミュニケーション活動に積極的に取り組む児童が増えた。
- ・外国語の60分授業は児童の意欲が続かない場合があった。そのため、体育、理科、図工、音楽、総合的な学習など技能教科を中心に行った。その結果、課題だった児童の意欲を持続させながら活動することができた。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

- ・3年生から6年生まで、ほぼ計画通りに進んでおり、年間35時間増がクリアできる見通しである。
- ・外国語は、月曜日のクラブ活動のない週の月曜と火曜にかためて、3、4年生は週1時間、5、6年生は週2時間、固定で位置づけた。固定にしたことで、担任は年間時数の見通しをもって進められるようになった。
- ・委員会活動と代表委員会は、月1回程度ではあるが、金曜の6校時終了後に外出しして行った。金曜日は、1校時の始業を10分早め、さらに掃除をカットして運営した。しかし、委員会や代表委員会がある日は実質7校時になり、児童を帰すのが16時30分頃になり、1日が慌ただしかった。今後は、委員会活動の回数を減らすことも含めて検討していく必要がある。ただ、掃除や委員会活動など、教育的効果が高い活動を削ることがどうなのかという葛藤がある。
- ・60分授業は、技能教科で行ったことで、例えば体育では、教室で説明を済ませた後、運動場や体育館に移動をして活動したり、活動後、教室に戻ってふり返りをしたりすることなど時間的に余裕を持って活動に向かわせることができた。

(地域との関係の視点から)

- ・校区在住の外国人の方を講師として、英語によるコミュニケーション及び外国の文化理解についての職員研修を行った。地域人材を活用できたことはよかった。

## 2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	・30年度取組の確認 ・週時程の提示 ・年間カリキュラムの作成・確認 ・職員研修(全職員による教材の確認)
5月	
6月	
7月	・児童・教職員に対するアンケート実施
8月	・職員研修(英語指導) ・外国語の評価についての検討

9月	
10月	
11月	
12月	・児童，教職員に対するアンケートに実施 ・本検証についてのまとめ作業実施
1月	・カリキュラム・マネジメント研修会参加
2月	・職員研修（講師招聘） ・年間反省
3月	・31年度計画立案

## 【2. 武雄市立若木小学校】

### 2-1 調査研究の内容

今年度において35時間の外国語学習の増加時間を確保し、3・4年生で年間35時間、5・6年生で年間70時間の授業実施に取り組んだ。H29年度とは方法を変更し、今年度は、年間の授業日数を増加させる方法に取り組んだ。

変更の理由は、60分の長時間学習では、書く活動にゆとりを持つことができる反面、児童の意欲を持続させることが難しいこと、また+15分の有効な学習内容を考えることが現段階では困難であったことなどが挙げられる。また、教師にとっても放課後の学級事務の時間が少なくなるなど、多忙感が増す状況であったからである。

時間確保の具体的な方法としては、夏季休業の最後の5日間を授業日とし、28時間を確保した。また、土曜等開校日を年4日間設定し12時間を確保、さらに授業時数に余裕を持たせるため、クラブ委員会がない火曜日の6校時を授業時間とし、年間17時間合計で、57時間を確保した。

外国語学習の実施方法としては、3～6年生までの外国語活動をALT来校日である木曜日に1時間ずつ位置づけた。5・6年生は、別の曜日に担任単独の外国語活動の時間を1時間位置づけて、週2時間で実践を行った。また、外国語指導の不安感を少なくするため、今年度は、校内研究で外国語学習を取り上げ、指導方法や授業作り等の研究を行ってきた。

### 2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

（子どもの視点から）

- ・外国語学習の時間が週の中で固定し、計画的、継続的な指導ができるようになったので子ども達の学習リズムが保ちやすい。
- ・長時間学習では意欲が続きにくい児童も見られたが、45分の慣れた授業時間で行うため、子ども達にとっても負担が少ない。
- ・週の授業時間は、増加をしていないので授業の時数が増えたという負担感は感じられない。
- ・担任主導で授業作りを行うため、児童の発達段階や興味・関心及び理解度にあった授業を受けることができる。

（教職員の負担の視点，校務運営の視点から）

- ・週の授業時間は増加をしていないため、教師にとっても負担感は少ない。

- ・外国語学習についての指導力に不安を持つ職員も多かったが、県主催の研修や校内研究としての研修によって、少しずつ不安感も少なくなってきた。
- ・担任とALTとの授業についての打合せの時間確保がなかなかできない。
- ・外国語活動を入れることによって、その時間枠の教科の時間が減るので、その補充も計画的に行っていく必要がある。固定時間割ができないので、教科の時数集計を確実にし、偏りなく週計画を立てて行く必要がある。

(地域との関係の視点から)

- ・本校は、コミュニティスクールとしての取り組みも行っている。朝の「花まるタイム」の補助や、児童との交流、体験活動の指導などでたくさんの方に学校教育に参加していただいている。しかし、外国語学習については、現在のところまだ人材や地域素材の面で地域との関係を作ることはできていない。

### 2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	教育課程編成 校内研究(外国語活動)の主題設定・研究の内容、方法の確認
5月	
6月	全体研究授業(6学年) 講師:北川副小 吉田まりか先生
7月	
8月	校内研究(授業作り) 講師:川原浩子先生
9月	
10月	全体研究授業(2学年)
11月	Gtec junior 検査(5・6年) 全体研究授業(3学年) 講師:講師:川原浩子先生
12月	
1月	校内研究(講話 佐賀大学教授:早瀬博範) カリ・マネ研修会
2月	広島大付属小公開授業参観
3月	

### 【3. 武雄市立東川登小学校】

#### 2-1 調査研究の内容

平成30年度、5・6年生は、「Hi! friends」「We can」を併用した外国語の年間カリキュラムを作成し、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能を取り入れながら、カリキュラムに沿った外国語の学習(年間52時間)を行った。また、朝の時間を使ったモジュール(年間18単位時間)の実施や、日常生活の中や校内の環境に英語を取り入れる取り組みにより、より英語を身近に感じ「英語が好き」「英語が分かる」という実感を味わわせたいと考えた。さらに、外国語の時間を確保しながら、できるだけ児童や職員の負担にならないよう以下の取り組みを行った。

#### ア 児童や教職員の負担感を軽減させる授業時数の確保

35単位時間の授業時数を確保するにあたり、

- ①週授業時数を増やさないこと
- ②授業時数のカウントがしやすいこと

を考慮して行った。

- ・ 1年生から6年生において、土曜日等の午前中3時間の開校を年間5日（計15時間）実施する。
- ・ 夏季休業の終わりの5日間、1～3年生において、1日5時間（計25時間）、4～6年生において1日6時間（計30時間）の授業を行う。給食も実施。
- ・ これまで、3時間だった夏季休業の前日に、1～6年生において5時間の授業を行う。
- ・ 合計1～3年生（計42時間）、4～6年生（計47時間）を、外国語の授業時間として活用する。

#### イ 「花まる英語」を実施する

武雄市が官民一体型学校で連携をしている民間の「花まる学習会」のノウハウを取り入れながら、朝の時間を使って「花まる英語」に取り組んだ。「We can」をもとに4技能を取り入れた「花まる英語」用の年間カリキュラムを作成し、5・6年生で以下の内容で年間を通して実施した。

- ①「Phonics」（電子黒板の動画を見ながら、英語の綴りと音の関係を学ぶ活動）
- ②「chants」（英短文を動画を見ながら発声する活動。）
- ③「Vocabulary」（英単語を動画を見ながらリズムに乗って発声する活動）
- ④「Writing」（「Phonics」や「Vocabulary」で発声したアルファベットや英単語をワークシートに書き写す活動）

#### ウ 日常に英語を取り入れる取り組み

- ・ 英語に触れ慣れ親しむ機会を増やすために、授業の始めと終わりのあいさつを英語で行う。
- ・ 職員室への入室や退室のあいさつを英語で行う。
- ・ 放送委員会が行う朝の放送や給食の際の放送を英語を使って行う。
- ・ 花まる英語開始の放送を英語で行う。
- ・ 英語を使った掲示物を階段や廊下など児童が普段から目に付く場所に掲示する。

#### エ ミッション

ALT が来校する日の休み時間を利用し、教師が示した簡単な英文を使ってALTに話しかけたり、質問をしたり、質問に答えたりする活動に取り組んだ。

#### オ ICTを活用した学習を取り入れる

電子黒板を使った学習やタブレット・ヘッドセットを使った学習（「NHK for school」の外国語学習コンテンツを活用）等を取り入れ、児童が外国語に興味を持ち、自分のペースで主体的に進めることができる学習も行う。

## カ 教職員の研修を行う

- ・講師を招聘して研修会を行う。
- ・先進校の研究発表会に参加する。
- ・ALTを講師に、職員の英語研修会を行う。

## 2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

### ア 児童や教職員の負担感を軽減させる授業時数の確保

- ・週授業時数は増やしていないため、児童にとっての負担感はなかった。
- ・土曜日の3時間の授業や夏季休業中の6時間の授業は、児童にとって負担になったと思う。エアコン使用や給食を実施したので、いくらか負担は軽減されたものの、授業時数を確保することを優先しつつ、配慮していかなければならない。

### イ 花まる英語

- ・児童アンケートの結果、「英語が前よりもわかるようになった。」と答えた児童が前年度と比較して増加(81%)した。「自分の言いたいことを前よりも英語で言えるようになった」児童が前年度の40%から46%に、「アルファベットが読めるようになった」児童が40%から65%に、「アルファベットが書けるようになった」児童が23%から58%へと大幅に増えた。昨年度のアンケートによると、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能が「できる」と実感している児童が少なかったという反省があったが、今年度はその点がかかなり改善され、「わかる」「できる」と実感できる児童が増えてきたと言える。これは、「花まる英語」に取り組み始めて2年目になり、ある程度の学習の積み重ねが出来たこと、内容をより精選したこと、年間カリキュラムを作成し、より教科書(We can)に沿った内容で学習ができたことなどが原因であると考えられる。
- ・アンケートによると、「英語が前よりもわかるようになった」「話すとき楽しい」と答えた児童は増えたものの、「英語が前よりも好きになった」と答えた児童は67%から46%へと大きく減少した。これは、昨年度は「花まる英語」が始まったばかりで新鮮な気持ちで取り組めたため、その前の年よりも「好きになった」と答えた児童が多かったと考えられる。しかし、今年度は2年目という慣れもあり、「前よりも好きになった」と感じる児童は減ったのではないかと。また、「英語を話すとき、難しいと感じる」児童が、43%から54%へと増えていた。学習する内容が増えてくるため、難しく感じている児童も多いようだ。「できる」実感を持った児童が増えてきた一方で、「難しい」と感じる児童も多いことを考慮しながら指導を工夫していかなければならない

### ウ 日常に英語を取り入れる取り組み

- ・職員室の入退室、授業の始まり・終わりのあいさつ、英語の放送、掲示物など、毎日の生活の中に普通に英語に触れる環境が整っているため、児童にとって英語を使うことに抵抗のない雰囲気醸成されている。電子黒板、タブレット、ヘッドセットなども常に使える状況にあり、「英語に耳が慣れている」「英語に慣れる環境が良い」「ハード面が充実している」と感じている職員も多い。

- ・職員室の入退室については、「先生に用事」「物を借りに来た」「先生から頼まれてきた」等いろいろな場面、状況によって言い方を変える必要があり、職員室前に例示してあるものの、特に低学年にとってはかなりハードルが高いものであった。職員からも「必然性がない」「まずは、日本語できちんとした挨拶、入り方を教えるべき」という声もあり、検討課題である。また、古くなってきている校内掲示物もあるので、適宜更新が必要である。

#### エ その他

- ・ICT機器の活用については、花まる英語や外国語の学習では常に電子黒板を活用し、非常に効果があった。タブレットやヘッドセットについては常時使用する物ではないが、幅広い形態の学習ができるため有効であった。
- ・ミッションについては、外国語の授業ではALTと一緒にいるが、個別に話す機会はなかなか取れない。ミッションは、短い会話であるが、実際に外国の人と1対1で話すことができる貴重な時間であった。
- ・週に1日だけの来校で、授業の打合せ時間もなかなか取れないため、忙しいALTの負担にならないかが心配であった。ALTも何回か交替したため、まずは負担を考慮し、ミッションができない時期もあった。
- ・先進校視察、講師を招聘しての講演、授業研究会、ALTとの学習会など実施することができたが、職員の研修の機会としては、十分とは言えなかった。今後、さらに職員のスキルアップのために、研修を行っていかなければならない。

#### (教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

- ・朝の時間を使って「花まる英語」を行ったが、電子黒板の映像や音声に沿って進めていく形態なので、担任にとっては進めやすかった。アンケートでは、学習の効果も実感できた担任が多かった。昨年度同様、4回で1単位時間(1回12分)とカウントし、週案で自動的に時数をカウントするやり方を行ったので、時数管理がわかりやすかった。
- ・土曜開校日や夏季休業中の授業日等で確保した余剰時数を外国語に当てた。今年度は、外国語活動・外国語科の授業時数として、1～2年生が年間14時間、3～4年生が35時間、5～6年生が75時間(うちモジュール学習で17時間)を確保することができた。
- ・毎週の時数を増やすことなく週28時間で外国語の時数を確保することができたので、教職員にとっては、負担の少ないやり方であった。職員に対するアンケートでも「いい方法だと思う。」「このやり方でよい。」「花まる英語のおかげで、時数に余裕ができている。」という好意的な意見がほとんどであった。
- ・平成29年度は、夏季休業中の授業日に給食がなかったため、弁当持参で授業を行い、保護者に負担をかけることになった。また、衛生面から弁当を冷蔵庫で冷やす手間も担任にとっては負担であった。しかし、H30年度は給食を実施することができ、各教室にエアコンも入ったので、負担なく授業を行うことができた。

(地域との関係の視点から)

- ・朝の「花まる英語」においては、「花まるタイム」の丸つけに来てくださっている支援員の方（保護者や地域の方々）も電子黒板の映像に合わせ、児童と一緒に英単語の発声や、英短文の発声に参加される姿が見られた。また、優しく声をかけながら、児童が書いた英語のプリントに花まるをつけてくださる姿が見られ、大変良かった。
- ・支援員として参加された地域の方の中には、「自分たちの頃と違って、このように小学生の時から繰り返し練習をすれば、英語が身につくと思う。」という意見を述べられた方もあった。

### 2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	外国語科、外国語活動年間計画・花まる英語年間計画作成
5月	地域学校協働本部による情報交換会 学校運営協議会による検討会 ALTとの英語研修会
6月	ALTとの英語研修会
7月	地域学校協働本部による情報交換会 カリキュラムマネジメント検討会議
8月	花まる英語講習会
9月	
10月	
11月	花まる意見交換会 児童・職員に対するアンケート実施 GTEC-Junior テストの実施
12月	鹿児島県南薩摩市教育委員会より本校視察
1月	カリキュラムマネジメントシンポジウム
2月	地域学校協働本部による情報交換会 カリキュラムマネジメント検討会議 先進校視察
3月	学校運営協議会による検討会

### 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

(子供の視点から)

- 60分授業を技能教科を中心に組んだことで、意欲を持続させながら取り組むことができた。
- 実践校3校とも、GTEC-Juniorの結果が昨年より伸びた。また、外国語活動の時数が増えても、「外国語活動の学習は楽しい」と答える児童が多かった。(アンケート結果より)
- 一週間の時間割の固定により、学習のリズムが保ちやすかった。



●昨年度は、夏季休業を短縮したことで授業時数は増えたが、昼食時の弁当の問題や暑さ対策が課題であった。今年度は、市の対策でエアコンの設置と給食を実施したことで児童の負担感が少なくなった。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

○夏季休業を短縮したことで、授業時数を確保でき、毎週の時間数が28時間で進められたので負担感は少なかった。

○時間割を固定したことで見通しをもって進められるようになった。

●授業時数を確保する手立てとして、委員会活動等を外出しにした日は教職員にとってハードであったようである。委員会活動の回数の見直し等を検討していく。

(地域との関係の視点から)

○朝の活動の「花まる英語」では、地域の方も一緒に英単語や英短文を発声する等、参加していただき、児童と楽しく活動する姿がみられた。

●地域の方による学校教育への参加はいろんな面からしていただいているが、外国語活動については、現在のところ、人材や地域素材の面ではもう少しの状況であるので、今後の検討課題である。

(設置者(教育委員会など)の視点から)

○「花まる英語」を15分の帯で行うことで、時数の確保もできるし、児童のアンケート調査からもよい結果が出ているので、市内でも実践校を増やしていきたい。

●授業時数の確保はできたので、それを活かして3つの側面でのカリキュラム・マネジメントを意識した教育課程を作成することを各学校と共有していく。

## ◎校内研究を進めるにあたって共有した方針や考え方

### 【朝日小学校】

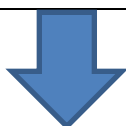
- ・授業時数確保のために、金曜日の1時間目を60分授業とする。
- ・外国語活動の時間を、中学年で年間35時間、高学年で70時間確保するために、委員会活動・代表委員会を金曜日の6校時終了後に行う。金曜日の朝の時間の短縮と掃除の時間カットで対応する。
- ・月曜日の6時間目のクラブのない週はその日のうちに外国語活動の時間を入れる。
- ・昨年度の反省より、60分授業を外国語活動で行ったとき、特に3、4年生にとって意欲の持続面が難しいこと、また、学習内容が中途半端になるということから、H30年度は、技能教科を中心に取り組むことに変更した。
- ・60分を生かした授業内容、活動計画を考えていく。
- ・H30年度は、夏季休業が5日間短縮され28時間の授業数増となる。

【東川登小学校】

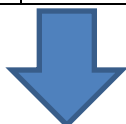
1. 本調査研究に関連する学校の現状・課題を踏まえた研究内容

(具体的な研究内容)

- ・以下を取り組むことにより、マネジメントの実践を行う。
  - ①1年生～6年生において、土曜日等の午前中3時間の開校を、年間5日間(15時間)実施する。6/16, 8/8, 12/8, 1/19, 3/2
  - ②夏期休業の**最後の5日間**、1年生～3年生において1日5時間(計25時間)、4年生～6年生において1日6時間(30時間)授業を行う。**(給食実施)**
  - ③これまで3時間授業だった夏季休業の前日に、1年生～6年生において5時間の授業を行う。



	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①により増加する時数	15	15	15	15	15	15
②により増加する時数	25	25	25	30	30	30
③により増加する時数	2	2	2	2	2	2
<b>合計</b>	<b>42</b>	<b>42</b>	<b>42</b>	<b>47</b>	<b>47</b>	<b>47</b>



この増加分を、外国語活動の時間にあてている。

武雄市立東川登小学校 教育課程表 (平成30年度)

	各教科の授業時数										特別の教科 である道徳	外国語活動	総 学合 習的 のな 時間	特別 活動	総 授業 時数
	国 語	社 会	算 数	理 科	生 活	音 楽	図 画 工 作	家 庭	体 育	外国 語					
第1学年	306		136		102	68	68		102		34	18 (+18)		34	868 (+18)
第2学年	315		175		105	70	70		105		35	18 (+18)		35	928 (+18)
第3学年	245	70	175	90		60	60		105		35	35	70	35	980

第4学年	245	90	175	105		60	60		105		35	35	70	35	1015
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	70	35		70	35	1015
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	70	35		70	35	1015
計	1461	365	1011	405	207	358	358	115	597	140	209	106 (+36)	280	209	5821 (+36)

## 平成30年度取り組みの具体的な内容

### (1) 花まる英語を実施する。

「Hi! friends」をもとに作成した花まる教材を使って、朝の時間に4技能を取り入れた「花まる英語」に取り組む。花まる英語の年間のカリキュラムを作成し計画的に行う。

- ・「Chants」(ALTの発音を聞きながら単語や英文をリズムに乗って発声する活動)または「Phonics」(英語の綴りと音の関係を学ぶ活動)
- ・「Vocabulary」(アルファベットや単語、英文を書き写して学ぶ活動)
- ・「Writing」(ボキャブラリーなどで出てきた単語や短文を書く活動(なぞり書き))。

#### 「花まる英語」昨年度(H29)からの変更点

##### ①「ボキャブラリー」に重点を置く。

→知っている単語が増えることが、子どもたちにとって、より「英語が分かる」という感覚につながるため、ボキャブラリーの内容をしっかりと定着させることを優先させる。

##### ②「チャンツ」をペアになって音読する「コミュニケーション」は今年度は行わない。

→英語での音読がしっかりと定着していない状態でペアで練習しても、「会話」を意識した練習にならないため。

### (2) 日常に英語を取り入れる取り組みを行う。

授業の始めと終わりの挨拶、職員室への入室や退室の挨拶を英語で行わせる。また、朝と昼の放送を英語で行わせる。また、英語の掲示物を作成し、校内に掲示する。

### (3) ALTを活用した「ミッション」を実施する。

ALTが来校する日の休み時間などを利用して、その日のテーマを決め、テーマに沿った簡単な英文を使ってALTに話しかけたり、ALTの質問に答えたりする活動に取り組む。

### (4) タブレットやヘッドセットを使った学習も取り入れる。

ヘッドセットやタブレットを使った学習(「NHK for school」の外国語コンテンツを活用)を取り入れ、各児童が外国語に興味を持ち、自分のペースで学習を進めることができる学習も行う。

### (5) 教職員の研修を行う。

- ・外国語教育の進め方について、講師を招聘し研修を行う。
- ・他校の外国語教育に関する研究発表会に積極的に参加する。
- ・外国語活動についての授業研究を行う。

**(6) 授業数増加による児童や教職員の負担感を軽減させる。**

35単位時間の授業時数を確保するにあたり、

- ①週授業時数を増やさないこと
- ②授業時数のカウントがしやすいこと

を考慮して行う。

全学年において、土曜等開校日や長期休業中に授業日を設定し授業時数を確保する。1・2年生は2週間に1単位時間程度の外国語活動を、3・4年生は1週間に1単位時間の外国語活動を行う。5・6年生は1週間に1単位時間のHRTとALTによる英語科の授業に加え、2週間に1単位時間のHRTのみによる英語科の授業、朝の「花まる英語」(4回で1単位時間)を行い70時間を確保する。

**(7) 夏季休業中の授業実施による保護者への負担をなくす。**

夏季休業中の5日間の授業日に給食を実施し、弁当作りによる保護者の負担をなくす。